



2020年

みやま

第264号

病院理念

『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針

「地域に根ざした安心できる医療」

「精神科医療の充実」

「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会 平川病院

本年の標語 『学びと感謝を常に忘れず 医療に対し誠実な病院 ～それが平川病院～』

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/> 〔e-mail〕 hhsp1966@violin.ocn.ne.jp

新型コロナウイルス感染対策に関するお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止の一環として、当院では引き続き入院患者様への面会をご遠慮いただいております。

また、院内感染防止対策を徹底するため、東館正面玄関ロビー以外の立ち入りを制限させて頂いております。

洗濯物の引き取り・お渡しにつきましては、病棟スタッフが対応いたしますが

12:00～13:00の間は患者様のお食事対応のため、出来る限りご遠慮願います。

尚、この時間帯に関しましてはお待たせしてしまう場合がありますのでご了承ください。

ご理解とご協力をお願いいたします。

状況に応じて情報を更新させていただきます。最新情報は当院のホームページにてご確認ください

新型コロナによる緊急事態宣言

安倍内閣総理大臣は、新型コロナウイルスに対してこのまま放置するとたくさんの犠牲者がでると判断し、令和2年4月7日緊急事態宣言をしました。諸外国では、都市封鎖という形で厳しい外出制限がありますが、日本はそれができないようで、「自粛」という国民の協力でやっていくということです。日本国民の多くは、自粛という言葉を受け止めて、家からでないようにし過ぎて、「コロナうつ」になってしまう人まででてきています。一方で、自分は関係ない。自分はうつらないんじゃないかなど甘い考えで、これまた自粛していないパチンコ屋にいたり、当院にも、マスクもせずにウロウロしている訪問者がときどきいます。たいへん未熟で、自分勝手な行動だと思います。当院には、認知症を始め、高齢になった患者さんがたくさん入院しています3月からご家族の皆様にも面会を、患者さんにも外出は極力控えていただいています。4月20日からは、洗濯物などの受け渡しも、事務所前で行い、病棟入り口まで行くことも止めていただいています。スタッフが、事務所前まで出向くことは、病棟に負担をかけることになってしまいますが、それでも持ち込まないように努力しています。どうか皆様の協力で、命を守っていただきたいと思います。よろしくお祈りします。

院長 平川 淳一

【表紙】 院長挨拶【P2】 新型コロナウイルス感染症(Covid-19)【P3】 歯科から【P4】 地域生活支援室より【P5】 退院時アンケート推移グラフ【P6】 こころの扉【P7】 居宅介護支援事業所ぐらんぱぐらんまオープン【P8】 新入職員の紹介(医局)

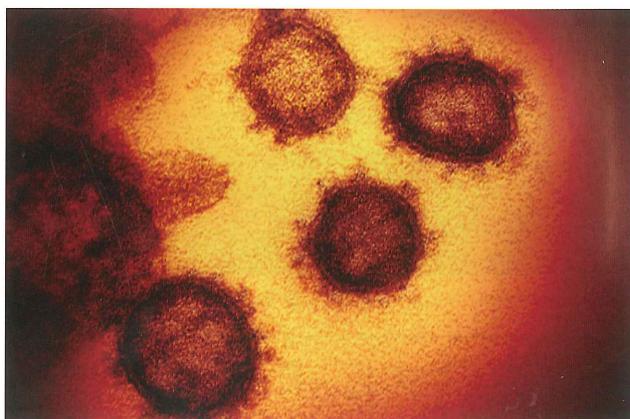
新型コロナウイルス感染症 (Covid-19)

最近の報道によると、我が国の新型コロナウイルス感染症の感染者数は、10,000人を超え、また死亡者も200人に迫ろうとしております。我が国のコロナウイルス対策は、当初からクラスターを徹底的に追いかけて、その集団にかかわる感染経路を封じ込めるというものであり、他の国のような都市封鎖などのような政策とは、一線を画す対策をとっています。またPCR検査については、検査を行うべき一定の基準を設け、症状のある患者さんを中心に行っており、他国のやり方とは異なるため検査数が少ない状態でした。これに対しては、各方面から様々な批判があるように思いますが、実際の死亡数は、他の先進国に比べても2桁少ない状態を維持しており、これまでのところ感染対策としては比較的うまくいっていると思われれます。この数週間で感染者数が増加しておりますが、このようなパンデミック状態においては、感染者数増加はある程度やむを得ないことであり、とにかく重症者を救命することが最も重要なことだと考えていいと思います。

パンデミックが終息するためには、多くの方が感染し免疫を獲得するか、あるいはワクチンが開発されるかであります。それまでの期間を私たちはあらゆる方法を用いて持ちこたえなければなりません。現在、

治療薬の臨床試験がいくつか進んでいます。皆さんもご存じの抗インフルエンザ薬「アビガン」はおそらく有効な治療法となると思われます。

今後は、アビガンによる治療が我が国の中心的なものとなると思いますが、この薬剤をどのように使用していくべきかを早急に決めていく必要があるでしょう。またPCRも治療薬使用に対して正しい診断を行うためにも必要性がさらに高くなるでしょう。



今年に入ってから、長いトンネルに入り込んだような閉塞感が全世界を覆っています。日本発の対策と治療法が暗いトンネルの先の光明となることを心から期待しています。

これから患者さんが増加し、当院も何らかの対応を迫られるかもしれません。

皆で力を合わせて頑張り抜きましょう。

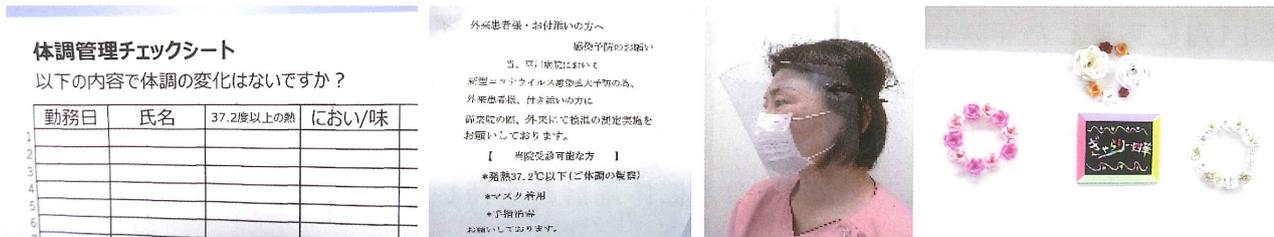
副院長 河合 伸

地域に根ざした美山町の歯医者さん

歯科から

当歯科では、治療が苦手な方や障害をお持ちの方にもご利用いただいております。

患者様のご家族と接する機会も多く、治療終わりには笑顔になってお帰り頂けたり、来院された患者様や美山地域の皆様が元気なお声をかけてくださったりと、患者様と良い関係を築けていることが感じられ、嬉しく思っています。先生方、スタッフ一人一人が向上心を持ち、協力し合い、笑顔のたえない明るくやさしい歯科です。皆様の御協力のもと、診療チーム、摂食嚥下チーム共に多職種連携が必須な院内歯科として、歯科外来診療環境施設基準を満たし、徹底して取り組んでいます。



スタッフの体調管理チェックシート／受付の案内／平川病院オリジナルのフェイスシールド／歯科内壁面のガラリー

《院内感染予防として普段からおこなっている取り組み（歯科内）》

- (1) マスク着用・シールドマスク着用
- (2) 患者様毎のグローブ着用・手指アルコール消毒
- (3) 歯を削る器具や切削機は治療後洗浄、個包（パック）し、滅菌処理
- (4) ディスポーザブルトレイを使用し、使用直前にパックを開封
- (5) 粉塵などを吸引する口腔外バキューム使用
- (6) 治療後の診療台の消毒、PC、マウス、医療機器の清拭
 - ① 洗浄・除菌クロスにて清拭
 - ② 次亜塩素酸を含んだクロスで二度清拭

《新型コロナウイルス感染予防対策として追加しておこなっている取り組み》

1. 歯科医師、スタッフの体温測定・体調管理チェックシートの記録
2. 外来窓口にて患者様、関係者の方へ体温測定実施（37.2℃以下）
3. ドア、窓を開放し換気、シアムーバ酸化水使用による加湿器配置
4. 受付設置の消毒剤による患者様の手指消毒の励行
5. 診療室内の受付にて保護フィルムシートの設置
6. 一般外来、他施設、病棟の診療時間を区分

新型コロナウイルスの影響による厳しい状況の中、正しい情報を得て、その知識を活かす事で感染リスクを最小化し、患者様に安心して御来院していただけるよう心がけていきます。今後ともどうぞ宜しくお願い致しますm(__)m

歯科受付・助手 松永 由紀

訪問看護の取り組み ～健康管理について～ 地域生活支援室より

2月号でも紹介しましたが、訪問看護では月ごとに健康に関することや、暮らしのヒントになるテーマを取り上げて、利用者の皆さんに状況を伺ったり、情報をお伝えする取り組みをしています。今回は健康に関する取り組みを紹介したいと思います。

〔インフルエンザについて〕

昨年年初めにインフルエンザウイルスに罹った利用者が数名いました。これを受けて、翌シーズンの昨年秋ごろからワクチン接種を促しましたが、41%（54名中22名接種：図1）の接種にとどまりました。職員としては接種率の低さに心配していましたが、昨年11月に実施した手洗い指導などが功を奏したのか、この冬はインフルエンザウイルスに罹った方はいませんでした。

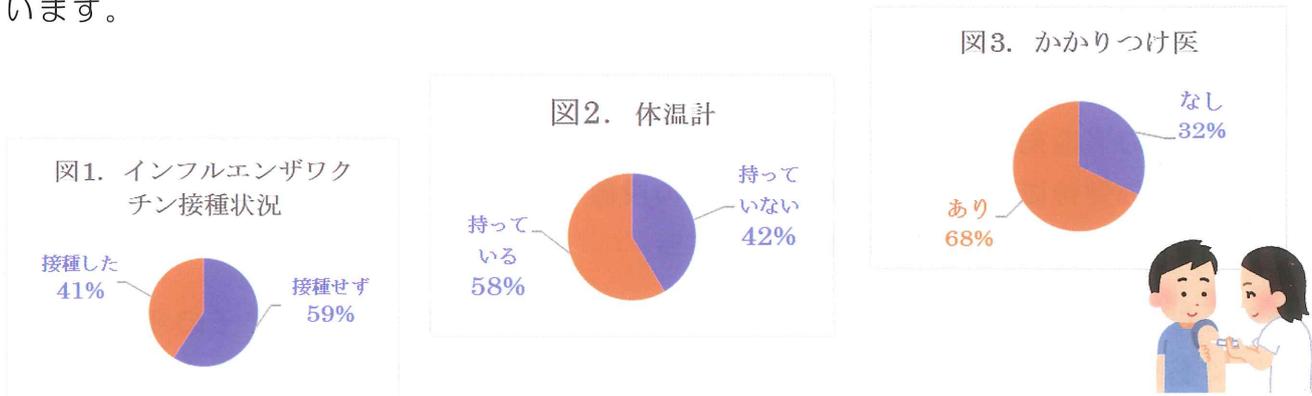
〔体温計について〕

健康管理の方法の一環として、今年の2月に体温計を所持しているか伺ったところ58%（53名中31名：図2）が持っていることが分かりました。訪問看護では体調確認として血圧計と体温計を持って訪問しますが、地域で生活する上で体調が悪い時に受診の目安になることから退院時に購入を勧めています。

〔近隣のかかりつけ医について〕

昨年12月の確認では、近隣の内科など平川病院以外のかかりつけ医がある方は68%でした。（53名中36名あり：図3）体調が悪くなった時に困ることがないように、近隣にかかりつけ医がない方は調べてお伝えすることも行っています。

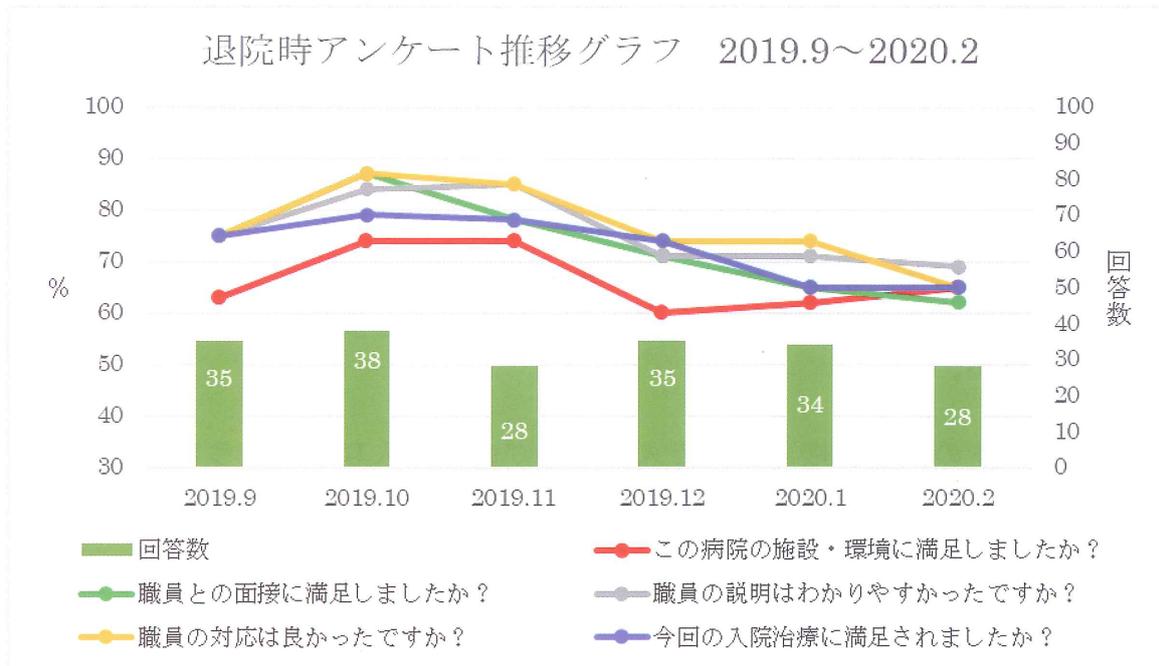
現在、新型コロナウイルスが流行しています。不安が募る中、上記にあげたことは支援の1つですが、行ってきたことの積み重ねが、利用者自身の予防や体調不良時に慌てず対処する行動に結びつくことを期待しています。そして、そのような経験を通して地域で自信をもって生活できるように、さらに私たちも支援を工夫していきたいと考えています。



地域生活支援科 訪問看護・外来 主任 看護師 高木 路子

退院時アンケート推移グラフ -2019.9~2020.2-

平川病院では、退院される患者さまにアンケートにご協力いただき、その集計結果を毎月検討しております。2018.9号、2019.3号、2019.9号の広報誌「みやま」へ掲載した続編として、「この病院の施設・環境に満足しましたか」「職員との面接に満足しましたか」「職員の説明はわかりやすかったですか」「職員の対応は良かったですか」「今回の入院治療に満足されました」の5項目（前回同様の項目）を抜粋し、データをグラフ化しました。



※折れ線グラフは、アンケートにて「はい」と回答いただいたパーセント、棒グラフは有効回答数を示します。

2018年11月より、委員会にて「回答数を増加させる」ことを再検討し、病棟中心に様々な取り組みを開始しました。回答数の平均は前月号36.5、今月号は33と回答数が減少しておりますが、ご回答いただきました患者さま・ご家族さまに御礼を申し上げます。引き続き、更なる「回答数を増加」を目指し取り組んでまいります。

上記グラフの推移を見ると、全体的に右肩下がりとなっており、前回より若干低い回答をいただいておりますが「職員の説明はわかりやすかった」の回答がほぼ70%~80%を占め、高水準の%を維持しております。日頃より取り組んでいる職員の対応（接遇）等の質向上が実施された結果が表れ、一定のご評価を頂いたと職員一同感謝申し上げます。

ただ、今回「職員との面接に満足しましたか」の回答は、徐々に低い評価となっており、グラフ後半はほぼ60%台の回答となっております。どのような改善が必要なのか検討し、以前のように高評価を頂けるよう努めてまいります。

今後も引き続き、医療についての説明と合意をより丁寧に行い、患者さまへ満足いただけるよう高度な医療提供を目指してまいります。何かございましたら、外来や病棟に設置しております意見箱に、是非、ご意見を頂戴いただければ幸いです。

こころの扉 その203 ～正しい対処を知ろう～

現在、新型コロナウイルス感染対策として「社会的距離」を保つことが重要であると言われています。こうした取り組みは一定の予防効果や安心感を生むと同時に、私たちに不安や孤独感などの心理的反応をもたらします。アメリカ心理学会は公式サイトにて、このような制限のある環境において心身の不調の予防や軽減に役立つ対処法を紹介しており、それを日本心理学会が翻訳して公開しています。今回はその記事の一部をご紹介します。

✿もしも「距離を保つ」ことを求められたなら：あなた自身の安全のために✿

○通常の生活から切り離された隔離状況下において、私たちに何が起きるか？

- ・恐怖と不安
- ・抑うつと倦怠（けんたい）感
- ・怒り、フラストレーションやイライラ
- ・スティグマ化

新型コロナウイルスに感染していたり、感染者と接触したことがあれば、接触感染を恐れる他の人たちから、自分が汚いもののように扱われていると感じるかもしれません。

- ・社会的弱者

もともと心や体の問題を抱えていた人、介護が必要な人などが、今まで以上に困った状況になります。医療従事者も、仲間との社会的距離を取らざるをえないことで心の辛さを感じやすいとされています。

○困難な状況にどう対処するか？

- ・信頼できる情報を獲得しよう

情報入手は重要ですが、あまりにも多く接すると恐怖感や不安感が増大してしまいます。情報源としてはWHOや厚生労働省などが理想的です。

- ・日々のルーティンを作り、それを守ろう

仕事、運動、学習など

- ・他者とのヴァーチャルなつながりを保とう

電話やソーシャルメディアなどを使ってコミュニケーションを取りましょう。

- ・健康的なライフスタイルを維持しよう

十分な睡眠や食事、運動をしましょう。

- ・ストレスを管理し、前向きでいるために心理的方略を使おう

その日にあった良い出来事を思い出す、マインドフルネスやリラクゼーションのエクササイズを試すなど。

詳細については、日本心理学会公式サイト内の特設ページ（<https://psych.or.jp/special/covid19/>）をご覧ください。



心と体の健康に気を配り、この辛い状況を乗り越えましょう！

心理療法科 公認心理師 桐生 佑紀子

居宅介護支援事業所ぐらんぱぐらんまオープン

4月1日、緑豊かな下恩方町に、居宅介護支援事業所ぐらんぱぐらんまが誕生しました。事業所は陣馬街道と高尾街道が交差する川原宿の交差点に位置しており、八王子西部の各地域へ訪問に伺っています。これまでの「居宅介護支援事業所ハートランド・ぐらんぱぐらんま」と「居宅介護支援事業所長房」の2つの事業所が統合し、新たなスタートを切ることになりました。

所属職員は4人ですが、そのうち2人が主任ケアマネジャー、3人が社会福祉士の資格を取得しています。これまでに培った経験と社会資源についての情報を駆使して、地域のご利用者と、ご家族の支援にあたっています。「いつでも相談できる場所」「頼れるケアマネジャーがいる事業所」をモットーに職員一同、地域福祉のお役に立ちたいと決意しています。

「こんな時どうしたらいいのだろうか?」「こんな事も頼めるのかな?」などの質問にケアマネジャーが丁寧にご説明致します。ご利用者が自らの意思で、利用するサービスを選択し、社会資源を有効に利用しながら、住み慣れた地域で生活が送れる事を目指します。

また、特定事業所指定を受けているので、24時間体制でご相談を受け付けると共に、職員の研修も積極的に行ってスキルアップを図り、様々な内容の相談に対応できるよう力を入れています。対応の難しいケースや介護保険以外の制度を活用する必要がある場合は、八王子市の相談窓口と連絡を取りながら、対応します。

地域の中核病院、訪問診療の医師、訪問看護師、リハビリスタッフ等の医療従事者とも連携しています。退院直後の方もケアチームで協力し、在宅生活が安心して送れるようにプランを作成しています。これからも一人暮らしの方や、ご家族が仕事をお持ちのご家庭に対しても、きめ細かい支援を行い「その人らしい」生活が続けられるように、ご本人やご家族と一緒に考え、適切なプラン作成を行って参ります。



居宅介護支援事業所ぐらんぱぐらんま
管理者 岩崎 潤子

職員紹介（医局：醍醐 龍之介）

4月から平川病院に赴任して参りました、東京慈恵会医科大学精神医学講座、後期研修医3年目の醍醐龍之介と申します。

私は今まで大学病院での病棟管理、外来診療、クリニックでの依存症専門外来を経験し、今回はアルコール病棟を担当させて頂くこととなりました。

急性期や認知症、内科病棟など、アルコール病棟以外の患者様も受け持たさせて頂き、積極的に学び、多くの患者様の治療に携わりたいと思っている次第です。

平川病院は、精神疾患は勿論、合併症を持つ患者様の加療、更にリハビリまでしている非常に社会貢献度の高い病院です。スタッフの方々も患者様一人一人に親身に接し、教育熱心な先生方も多く相談しやすい環境であり、後期研修最後の年を平川病院で過ごせることを大変嬉しく存じます。

医師としてまだまだ至らない点が多くご迷惑をお掛けすると思っておりますが、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



当院は南多摩医療圏の地域拠点型認知症疾患医療センターです

東京都では、平成24年に指定された「地域拠点型認知症疾患医療センター」12カ所（当院含む）と平成29年11月迄に指定されている「地域連携型認知症疾患医療センター」40カ所、合わせて52カ所の医療機関において、認知症の人とその家族が安心して暮らせる地域づくりを進めています。

認知症に関するご質問がありましたら、各地域のセンターまでお問い合わせ下さい。

尚、センター指定状況や役割の詳細等については、東京都公式ウェブサイト『とうきょう認知症ナビ』でのご確認いただけます。

[とうきょう認知症ナビ](#)

編集後記

緊急事態宣言による自粛が継続し、なかなか明るい話題にたどり着かず、ネットでは日本人の行動が、海外で評価されたり、不思議に思われたりされています。ポジティブな言葉をさがすと「明けない夜はない」「止まない雨はない」「今が最悪と言え間は、まだ最悪ではない」「あきらめたらそこで試合終了」等……。ウイルスとの戦いの出口は見えず心に響きませんが、普通の日常の日々が1日でも早く訪れることを信じてポジティブに！

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076

電話 042-651-3131

FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします

kouhou@hsp1966.jp

**HIRAKAWA
HOSPITAL**

